

平成 29 年度 特定課題研究費研究報告書

研究代表者	所属	一般教養	職	助教	氏名	福永 堅吾
研究分担者	所属		職		氏名	
	所属		職		氏名	
	所属		職		氏名	
研究課題名	(和文) メディアとしての展覧会 ― 1923 年のバウハウス展覧会を手がかりに (英文) Exhibition as Media: With Reference to the Bauhaus Exhibition in 1923					
研究種目	スタートアップ研究					
① 研究実績の概要						
<p>展覧会はひとつのメディア（媒体）として機能させるやり方は歴史的にくりかえされてきた。展覧会をアーティストの情報発信源として機能させ、そこから芸術運動の拠点とすることも歴史上数多ある。この一例として、今年度は 1923 年のバウハウス展覧会を核として、ヴァイマル時代のバウハウスおよびバウハウス初代校長にして 20 世紀を代表する建築家ヴァルター・グロピウスの活動の履歴をたどった。また、今年度は、上述の展覧会と比較する意味合いも込めて、ニューヨーク近代美術館（MoMA）にて開催された「Modern Architecture: International Exhibition」（1932）の研究も行った。この展覧会は近代建築界にも大きな影響を与え、グロピウスがアメリカで広く認知される契機となったもので、グロピウスがバウハウスの校長を辞してのち、アメリカを活動の拠点として見出すに至ったものである。研究成果は学会での研究発表という形で発信することができた。</p>						
② 研究発表（論文、著書、講演等）						
<p>■研究発表（2 件）</p> <p>福永堅吾、北出義伸「文と文のつながりを意識した「英語表現」でのライティング指導」語学教育研究所、2017 年度研究大会、東京家政大学、2017 年 11 月 19 日</p> <p>福永堅吾「ヴァルター・グロピウスの「インターナショナル・スタイル」的側面についての考察 ― グロピウスとアメリカのかかわりについて」日英言語文化学会、第 63 回 AJELC 定例研究会、明治大学、2017 年 12 月 9 日</p>						
③ その他（教育活動・OPC への貢献、特許等）						
<p>■OPC 講座</p> <p>「ドイツ語講座―初級から中級へ」東京都立産業技術高等専門学校 品川キャンパス、2017 年 11 月-2018 年 1 月、計 10 回</p> <p>■社会貢献等</p> <p>日英言語文化学会、運営委員（紀要委員） 語学教育研究所、研究員・事業部支援員</p>						